

今日のトピック 世界の「投信マネー」(2019年5月)
リスクオフが強まる中、滞留する「投信マネー」
投信マネーは「MMF」への流入増で再び流入超

■ 5月の投信マネー全体は+501億ドル（前月▲311億ドル）と流入超に転じました。「MMF」が+845億ドル（前月▲559億ドル）と前月から一転して大幅な流入超となったためです。「バランス」が▲67億ドル（同▲63億ドル）、「オルタナ」が▲40億ドル（同▲21億ドル）となる中、「株式」は6カ月連続の流出超で、額も▲495億ドルと前月（▲84億ドル）より大幅に増加しました。一方、「債券」は+257億ドル（同+417億ドル）と5カ月連続の流入超となりました。

「先進国」株式ファンドは8カ月連続の流出超

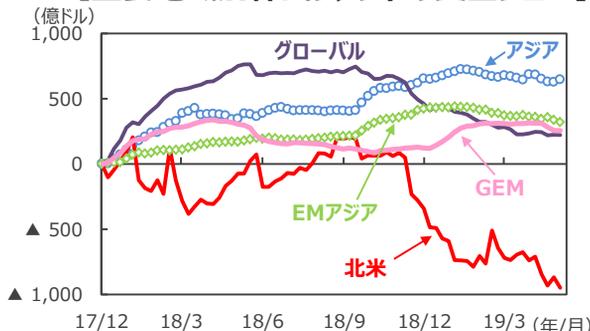
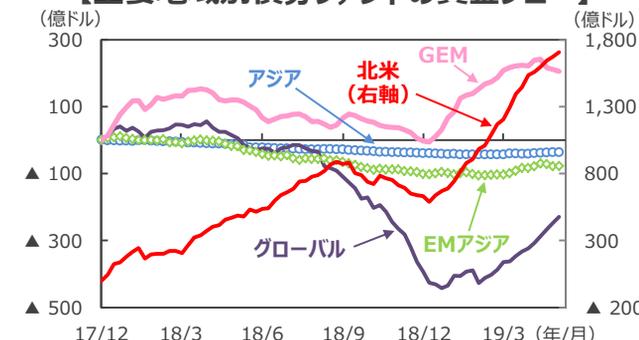
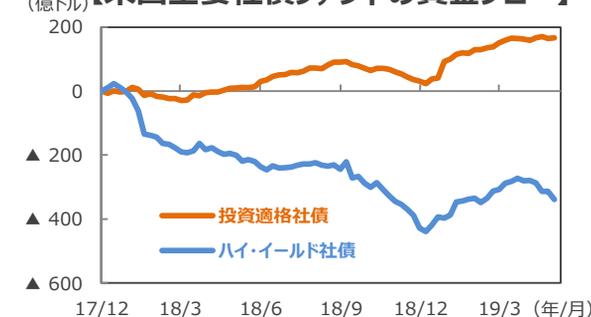
■ 株式ファンドは、「先進国」が▲408億ドル（同▲87億ドル）と8カ月連続の流出超で、流出超過額が増加しました。「北米」が▲239億ドル（同+25億ドル）、「日本」を含む「アジア(注3)」が▲37億ドル（同+13億ドル）と流出超に転じました。「新興国」も▲87億ドル（前月+2億ドル）の流出超でした。

債券ファンドは「新興国」が流出超に転じる

■ 債券ファンドは、「先進国」が+291億ドル（同+372億ドル）と5カ月連続の流入超です。一方、「新興国」は「GEM(注4)」が▲34億ドル（同+22億ドル）と5カ月ぶりの流出超に転じ、「EMアジア(注5)」は+1億ドル（同+21億ドル）と流入超過額が縮小しました。また、米国ではハイ・イールド社債が▲59億ドル（同+9億ドル）と5カ月ぶりの流出超に転じました。

リスクオフが強まる中、滞留する「投信マネー」

■ 5月は、米中貿易摩擦が一段と激化したことで、リスクに対して慎重な姿勢をとる動きが強まり、株式、新興国債券、米ハイ・イールド社債等に投資する投信から資金が流出しました。しかし、「MMF」が増加したことで投信マネー全体は増加しました。今後の景気動向や金融政策を見極めつつ、投信マネーは再びリスクをとる動きを強めるのか、安全性を重視するのか、が注目されます。

【主要地域別株式ファンドの資金フロー】

【主要地域別債券ファンドの資金フロー】

【米国主要社債ファンドの資金フロー】


(注1) EPFRグローバル：米国に本社を置く金融商品の調査会社。2019年4月末現在34.8兆ドル規模の世界のファンドの資金フローデータを持つ。
 (注2) データは2017年12月～2019年5月。週次ベース。2017年12月からの累計。
 (注3) 「アジア」は日本、豪州、ニュージーランド、香港、シンガポール。
 (注4) 「GEM」はGlobal Emerging Markets（世界の新興国市場全体に投資するファンドの総称）。
 (注5) 「EMアジア（新興アジア）」は中国、インド、韓国、台湾、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、パキスタン、バングラデシュ。
 (出所) EPFRグローバルのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

**ここも
チェック!**
2019年5月31日 投資環境の見通し (2019年6月号)
2019年5月28日 2019年6月の注目イベント

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。